

<平成27年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

士別市立士別中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイムなどを設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

## 座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の  
確認



写真・映像などを使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験  
に基づく「オリンピックの  
価値」などについて話す



グループ（個人）ワーク  
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年9月4日 (金)
- 場 所 : 土別市土別中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (35名)、2年B組 (35名)
- オリンピック : 鈴木 靖 先生 (スケート/スピードスケート)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介、準備体操



- ・簡単な自己紹介と授業の目的の確認。
- ・準備体操としてストレッチとダイナミックストレッチを実施。
- ・ステージ前に再度集合。オリンピックシンボルの意味やオリンピックバリュー説について説明し、オリンピックバリューは「人生をよりよく生きるために必要なこと」とあると伝え、授業をスタート。



## 2.主運動 等



- ・ 3グループに分かれて八の字跳びを実施。
- ・ 60秒以内に連続して跳んだ回数を競うことを説明し、全3回戦を実施。
- ・ 八の字跳びで学んだことを生かして全員跳びを行う。意見を出し合い、チームワークを意識することで、1分間という短い間の中でも結果は変わると伝える。

## 3.まとめ 等



- ・ 八の字跳びでは、作戦タイムを使って、跳ぶ人、回す人がそれぞれの役目を考えることでより良くするために力を合わせることで結果が変わってくる。
- ・ 座学の時間は、運動の時間で感じられたオリンピックバリューについて、詳しく説明すると予告して授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・座学の時間では、オリンピックとオリンピックバリューについて考えて欲しいと伝え、授業を開始。
- ・実際にスピードスケートとショートトラックの靴を見せながら、スケート競技や靴の構造について説明。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・オリンピックは平和の象徴である。相手と競っているように思えるかもしれないが、実際は自分自身と戦っている場である。
  - ・オリンピックの開催地や実施競技、古代オリンピックから近代オリンピックへの変遷やクーベルタンの思いについて説明し、オリンピックを通じた人間性の成長、人間として平和を考えることが必要であると伝える。
  - ・次にオリンピックバリューについて、人生をよりよく生きていくうえで大切な価値観であると話す。
- エクセレンス（＝卓越）：メダルをとることだけが大切なのではなく、参加するまでの努力に価値がある。
- フレンドシップ（＝友情）：周りで支えてくれる友人や仲間への感謝。
- リスペクト（敬意、尊重）：自分がないものを持っている人はすべて尊敬に値する。お互いを尊重して、自分がないものを補うことが大切である。



### 3. グループワーク 等



発問：運動の時間の縄跳びを通じて、何が大切だったか、自分が感じたことを振り返る。

発表：みんなで心をひとつにするために声を出すこと等を通じて団結力が大切だと感じた。一生懸命取り組むこと、相手を思いやることや意見の尊重が大切。

### 4. まとめ 等



- ・運動の時間を通して、前向きに取り組むことや、気持ちをひとつにすることで何倍もの力が発揮されることが体験できたと思う。
- ・昨日より0.1%でも頑張ることを継続し、積み重ねることで結果的に大きな数字になる。振り返ることも必要だが、出来るだけ後ろを見ずに、前を向いて少しずつ進んでいって欲しい。そうした地道な努力は将来必ず自分の力になるので、それを忘れずにいて欲しいと伝え授業を終了。





■ 集 合 写 真  
2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

